

#アンプ de GO!!

with

Marshall

第2回

season2

先月号から改めてシーズン2として再スタートした連載『アンプ de GO!!』。この企画は“アンプでギターを鳴らす大切さ”を様々な角度からみなさんにお伝えする連載だが、今回は[Alexandros]の白井に登場してもらい、彼自身が愛用しているマーシャル・アンプと共に、“マーシャルという王道アンプに対して抱いている想い”を聞き出すことにした。デビュー以来、同社製のアンプを使い続けている彼が語った言葉とは…？

製品のお問合わせ先 / ヤマハミュージックジャパン [http://www.marshallamps.jp]



「ギブソンのギターとかマーシャルのアンプが好きで使い続けているわけなんですけど、なんかペンツとロレックスっていうか、ギタリストなら誰もが一番知ってるみたいな組み合わせだと思うんですよね。だからこそレコーディングでもライブでも使ってる感覚なんです。そういう中で、やっと最近“マーシャルってマーシャルの音がするんだな”って改めて思うようになりました。もともと結構素直な音が出るアンプだとは思ってたんですけど、やっぱりマーシャルにはマーシャルの個性ってあって、フェンダーのアンプともまったく違うし、プラグインのマーシャルのモデリングと実際にマーシャルのアンプを鳴らしたときですら全然音が違う。そこで“やっぱりマーシャルはマーシャルの音がするんだな”と感じたわけです。今までいろんなブランドのアンプも鳴らしてきましたが、結局どのアンプにも個性はちゃんとあるものなんです。だから、ギターとアンプの組み合わせで音はほぼ決まってくるし、エフェクターは

そこに2割ぐらいの味付けをしてくれるもの、っていうイメージで音作りをしています。

高校生時代って、別に“俺はマーシャルの音が好きだからスタジオでマーシャルの音にこだわってるんだぜ！”っていうよりも、みんながマーシャル使ってるからとか、自分の好きなアーティストがマーシャル使ってるし…みたいなところで選んでると思うんです。俺自身も、ジョン・フルシアンテとかスラッシュ等が好きで、彼らが使ってるから使い始めて、今も使い続けている。なんかそれが普通だって思ってるくらいなんです。マーシャルの音がいわゆるエレキギターの音だって思ってるぐらいなんで、そこに深い理由はあるかな。デザインを見てもカッコいいし、ステージに置いてみてもマーシャルはカッコいい。そのぐらいの感覚で選んでるんですよね。マーシャルを使ってる人って、実は選んでる理由とかを辿っていくと、そんなところなんじゃないかなって俺は思ってますね」(白井)



▲「ステージ上には3段積み、3組並べてますが、鳴らしてるのは1959とシルバー・ジュビリーの2つ。1959がクリーン用で、シルバー・ジュビリーが歪み用になってます。最初はクリーン用にJCM800を使いたいと思って試してたんですけど、ちょっと音のノリが違うなと思って昔から使ってる1959に戻した感じですね。ちなみに1959用のフレットクロスはクリーム色に塗り直して、ブランドのロゴもヘッドに合わせて換えています。最初は3つ並べるつもりではなかったんだけど、テックと話しているうちに…まあ面白そうだし、絵的にも迫力あるんで並べることにしました(笑)」(白井)